

介護保険運営協議会

資料2

R8. 5. 21

介護サービス提供に関するアンケート調査 報告書

令和8年●月

東松山市

目次

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4

第2章 調査結果の詳細

1 介護支援専門員向けアンケート	7
(1) 年齢	7
(2) ケアマネジメント業務の経験年数	7
(3) 持っている保健医療福祉関係の資格	8
(4) 主任介護支援専門員の資格の取得意向	8
(5) 介護支援専門員としての就労意向	9
(6) 事業所併設の介護サービス	10
(7) ケアプラン作成の担当人数	11
(8) 地区ごとのケアプラン担当人数	11
(9) ケアプラン作成を追加で担当できる人数	12
(10) ケアプランの依頼を断った経験	12
(11) ケアプランの作成を断った具体的な理由	13
(12) ケアプラン作成にあたっての項目の重要度	14
(13) 地域に不足している・必要と思う介護保険サービス	18
(14) 地域に不足している・必要と思う総合事業サービス	20
(15) 今後、充実が必要だと思われる介護保険以外のサービス	21
(16) 在宅で高齢者等を介護している家族に対してあると良い支援・サービス	22
(17) 介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者	23
(18) 入所・入居を希望している利用者の人数・希望する施設	24
(19) 必要な連携が不足している関係機関・関係者	25
(20) ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うこと	26
(21) ケアマネジャーの質の向上における課題	27
(22) BCP運用の課題	28
(23) BCP運用における課題の内容	28
(24) 個別避難計画策定に携わっているか	29
(25) 医療機関との連携を進める上での課題	30
(26) 利用者急変時の対応で問題を感じることがあるか	31
(27) 利用者急変時の対応における具体的な問題	31
(28) 利用者急変時の対応について情報共有しているか	32

(29) 在宅での看取りについて問題を感じるか	33
(30) 在宅での看取りにおける具体的な問題	33
(31) 比企地区で実施している事業の認知度	34
(32) 認知症利用者のケアマネジメントにあたっての困難	36
(33) 利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初に相談する相手	37
(34) 徘徊行動のある利用者の人数	37
(35) 認知症の方の支援にあたり必要になること	38
(36) 自由意見	39
2 介護サービス事業所向けアンケート	40
(1) 現在提供しているサービス	40
(2) 定員に対する利用者の受け入れ状況	41
(3) 経営状況	41
(4) 事業を運営する上での課題	42
(5) 今後のサービス拡大の検討状況	43
(6) 増加・拡大を検討したいサービス	43
(7) 職員募集の方法	44
(8) 人材を定着させるために取り組んでいる内容	45
(9) 職員の過不足状況	46
(10) 介護人材が不足している理由	47
(11) 外国人介護人材の活用状況	48
(12) 外国人介護人材の人数	48
(13) サービス向上のための取組	49
(14) 直近1年間で利用者から受けた苦情の内容	50
(15) 利用者からの苦情や相談を受けたときの対応	51
(16) 必要な連携が不足している関係機関・関係者	52
(17) 医療機関との連携を進める上での課題	53
(18) 比企地区で実施している事業の認知度	54
(19) 利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初に相談する相手	57
(20) 徘徊行動のある利用者の人数	57
(21) 認知症の利用者への課題	58
(22) ケアプランデータ連携システムの導入への考え	59
(23) ケアプランデータ連携システムの導入予定時期	59
(24) 自由意見	60

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

令和9年度から令和11年度を計画期間とする「第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（※認知症施策推進計画を包含）」の策定にあたり、介護支援専門員・介護サービス事業所の状況や意向などを把握するため、各種アンケート調査を実施した。

2. 調査の種類

1. 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所に従事する介護支援専門員向けアンケート	東松山市内の居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所に従事する介護支援専門員
2. 介護サービス事業所向けアンケート	東松山市内の居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所を除く介護サービス事業所

3. 調査方法と回収状況

調査方法：1. 郵送配布・郵送回収、2. メール配信

調査期間：令和8年2月24日（火）～令和8年3月13日（金）

<回収状況>

1. 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所に従事する介護支援専門員向けアンケート	89件	60件	67.4%
2. 介護サービス事業所向けアンケート	116件	55件	47.4%

4. 調査項目

1. 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所に従事する介護支援専門員向けアンケート	あなたご自身について、今働いている事業所の介護サービスについて、ケアプランの作成について、地域に必要な支援について、関係機関との連携について、サービスの質について、災害時・緊急時の対応について、看取りについて、比企地区事業の認知度について、認知症の方について、自由意見 等
2. 介護サービス事業所向けアンケート	事業所の概要について、事業経営について、従業員・人材確保について、サービスの質の向上への取組について、関係機関との連携について、比企地区事業の認知度について、認知症の方について、ケアプランデータ連携システムの導入について、自由意見 等

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・ 本文、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・ 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・ 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

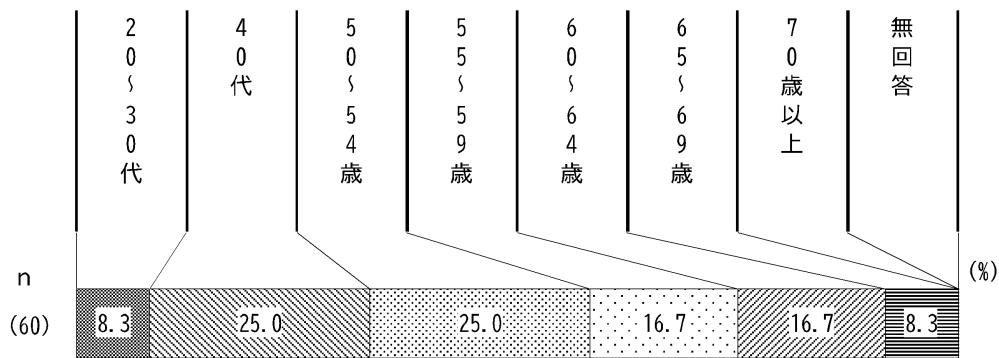
1 介護支援専門員向けアンケート

(1) 年齢

問1 あなたご自身のことについてうかがいます。
 (1) 年齢 (○は1つ)

年齢階級は、「40代」と「50～54歳」が25.0%で最も多く、次いで「60～64歳」と「65～69歳」が16.7%となっている。

図表1-1 年齢 全体

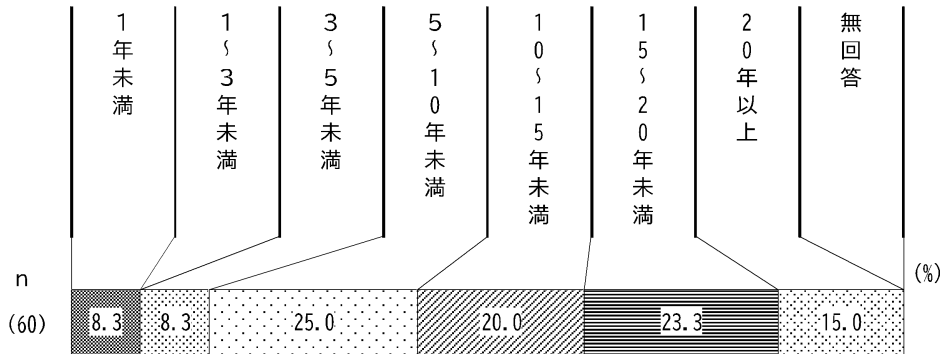


(2) ケアマネジメント業務の経験年数

(2) ケアマネジメント業務の経験はどのくらいになりますか。(○は1つ)

ケアマネジメント業務の経験年数は、「5～10年未満」が25.0%で最も多く、次いで「15～20年未満」が23.3%、「10～15年未満」が20.0%となっている。

図表1-2 ケアマネジメント業務の経験年数 全体

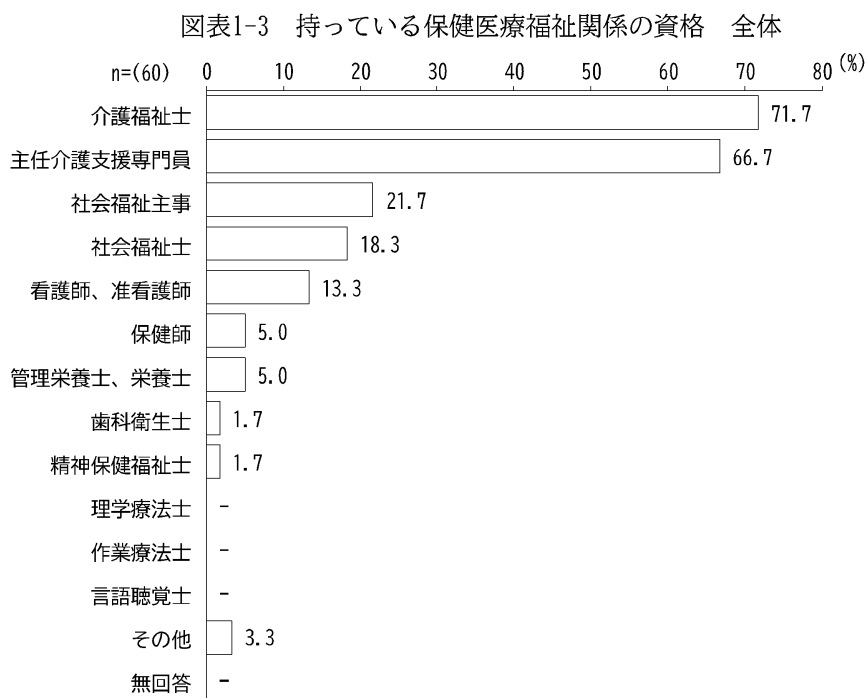


1 介護支援専門員向けアンケート

(3) 持っている保健医療福祉関係の資格

(3) あなたは、介護支援専門員以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

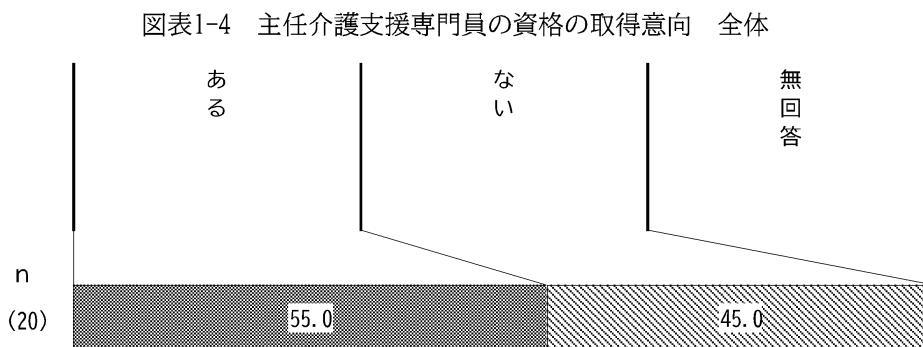
持っている保健医療福祉関係の資格は、「介護福祉士」が71.7%で最も多く、次いで「主任介護支援専門員」が66.7%、「社会福祉主事」が21.7%、「社会福祉士」が18.3%となっている。



(4) 主任介護支援専門員の資格の取得意向

(問1 (3) で、「12. 主任介護支援専門員」以外をお答えの方におたずねします。)
(3) - 1 主任介護支援専門員の資格を今後取得する意向はありますか。(○は1つ)

主任介護支援専門員の資格の取得意向は、「ある」が55.0%、「ない」が45.0%となっている。

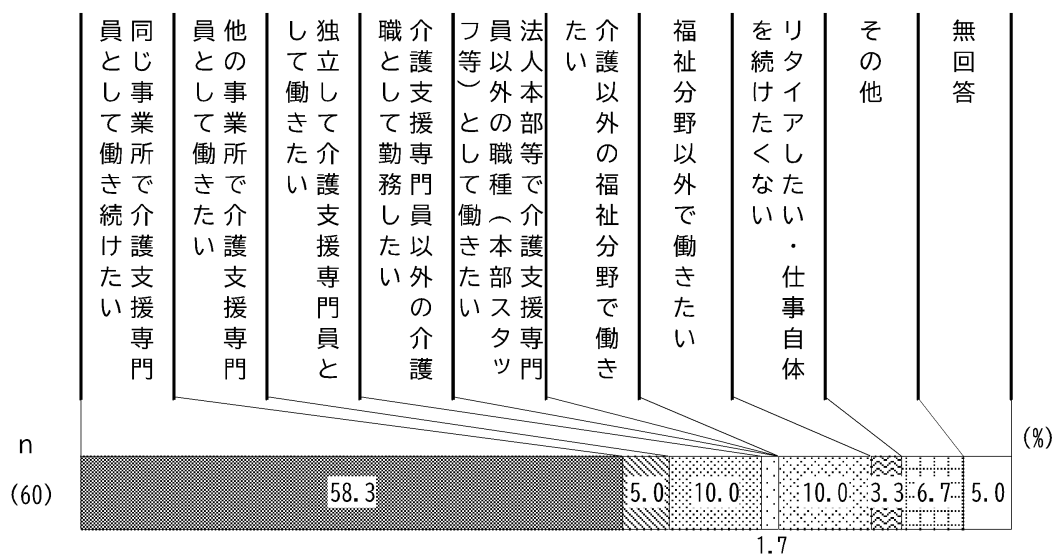


(5) 介護支援専門員としての就労意向

(4) あなたは今後も介護支援専門員として働いていきたいと思えますか。(○は1つ)

介護支援専門員としての就労意向は、「同じ事業所で介護支援専門員として働きたい」が58.3%で最も多く、次いで「独立して介護支援専門員として働きたい」と「福祉分野以外で働きたい」が10.0%、「その他」が6.7%となっている。

図表 1-5 介護支援専門員としての就労意向 全体



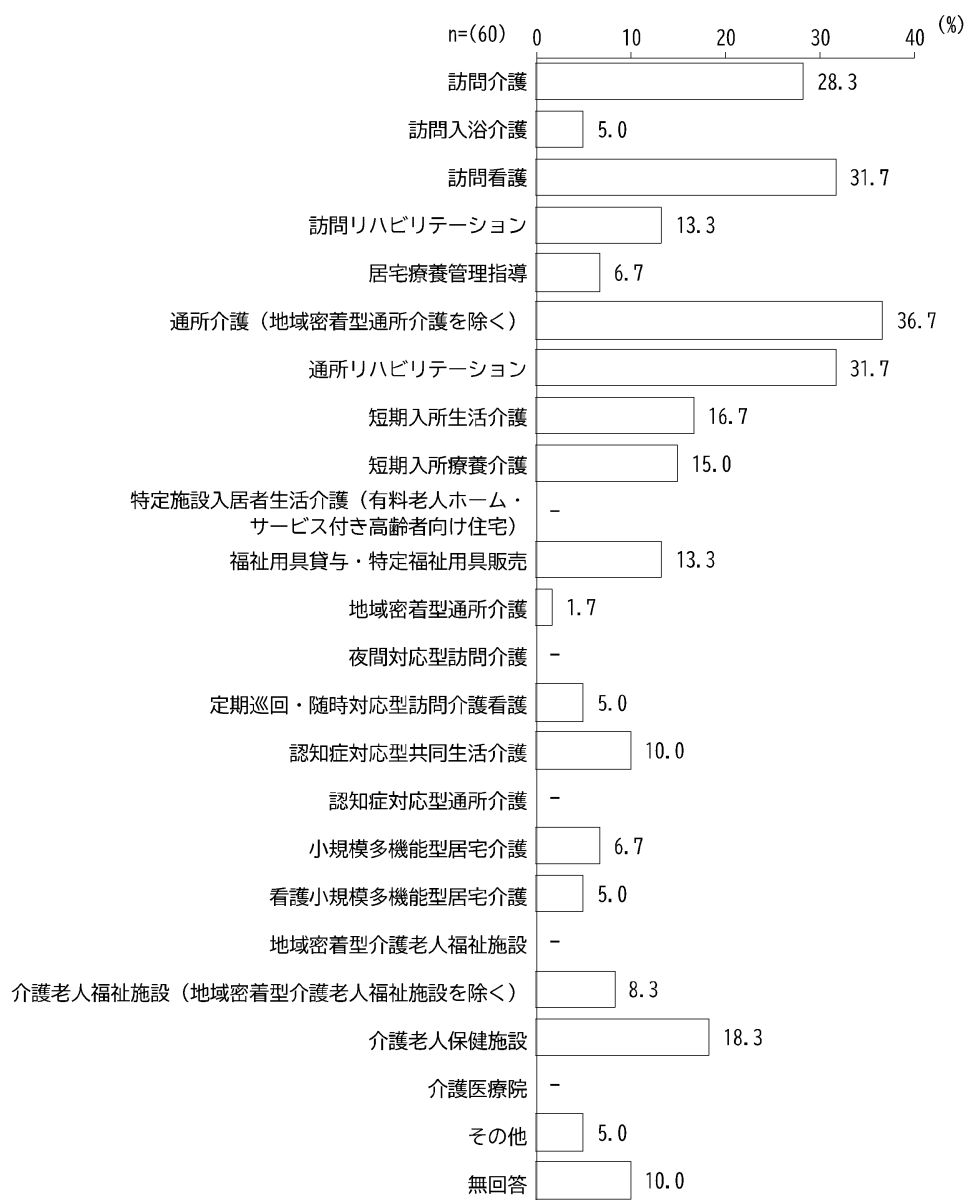
1 介護支援専門員向けアンケート

(6) 事業所併設の介護サービス

問2 あなたが今働いている事業所に併設されている介護サービスの種類は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

事業所併設の介護サービスは、「通所介護（地域密着型通所介護を除く）」が36.7%で最も多く、次いで「訪問看護」と「通所リハビリテーション」が31.7%、「訪問介護」が28.3%となっている。

図表1-6 事業所併設の介護サービス 全体



(7) ケアプラン作成の担当人数

問3 ケアプランの作成についてうかがいます。
 (1) あなたは、何人のケアプランの作成を担当していますか。

ケアプラン作成を担当している全人数は2,079人で、一人あたりの平均は35.2人となっている。全数のうち、要支援者（事業対象者含む）の人数は360人で一人あたり平均で6.1人となっている。

図表1-7 ケアプラン作成を担当している全人数・うち要支援者の人数

ケアプランを作成している全人数	2,079人	35.2人
うち要支援者の人数	360人 (17.3%※)	6.1人

※回答者（59）一人あたりの平均作成人数

※（）内は全人数に対する要支援者（事業対象者含む）の人数の割合

(8) 地区ごとのケアプラン担当人数

(2) 上記(1)の作成している全人数について、地区ごとの人数をお答えください。

地区ごとのケアプラン担当人数は、「松山地区」が652人で、全人数の31.4%で最も多く、次いで、「東松山市外」が269人で12.9%、「唐子地区」が196人で9.4%、「高坂地区」が183人で8.8%となっている。

図表1-8 地区ごとのケアプラン担当人数 全体

人数	652人	77人	65人	196人	183人	93人	142人	269人	402人	2079人
割合	31.4%	3.7%	3.1%	9.4%	8.8%	4.5%	6.8%	12.9%	19.3%	100.0%

1 介護支援専門員向けアンケート

(9) ケアプラン作成を追加で担当できる人数

(3) あなたは何人のケアプランの作成を追加して担当できますか。

ケアプラン作成を追加で担当できる人数は195人で、一人あたりの平均は3.3人となっている。また、作成している人数(2,079人)との合計は2,274人で、一人あたりの作成可能人数は38.5人。作成している人数の割合は91.4%で、追加で作成できる人数は9.4%となっている。

図表1-9 ケアプラン作成を追加で担当できる人数

人数	195人	2,079人	2,274人
割合	9.4%	91.4%	100.0%
一人あたりの平均人数 ※	3.3人	35.2人	38.5人

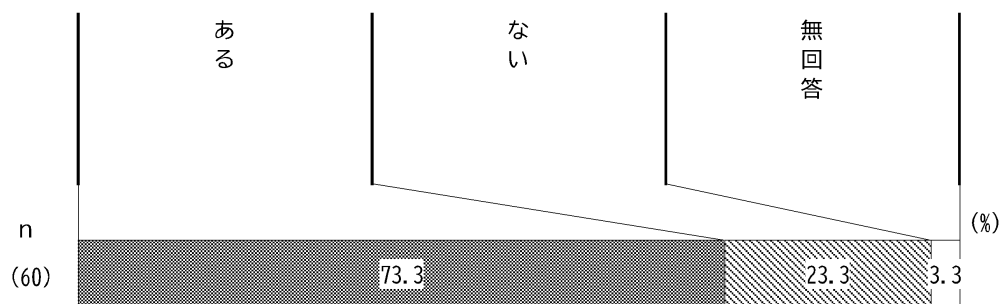
※回答者(59)一人あたりの平均作成件人数

(10) ケアプランの依頼を断った経験

問4 ケアプランの依頼があった際に、依頼を断ったことはありますか。(○は1つ)

ケアプランの依頼を断った経験は、「ある」が73.3%で、「ない」は23.3%となっている。

図表1-10 ケアプランの依頼を断った経験 全体



(11) ケアプランの作成を断った具体的な理由

(問4で、「1. ある」とお答えの方におたずねします。)

問4-1 ケアプランの作成を断った理由をお聞かせください。(自由記載)

ケアプランの作成を断った具体的な理由をたずねたところ、43人からの回答があった。その他を除いて回答の多かった内容は、「現在の担当で時間がない、手がまわらない」「新規対応が重なった」「担当件数が上限を超えてしまう」の順であった。

図表1-11 ケアプランの作成を断った具体的な理由の内容

回答者数=43人

現在の担当で時間がない、手がまわらない	15
新規対応が重なった	9
担当件数が上限を超えてしまう	7
その他	15

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない

1 介護支援専門員向けアンケート

(12) ケアプラン作成にあたっての項目の重要度

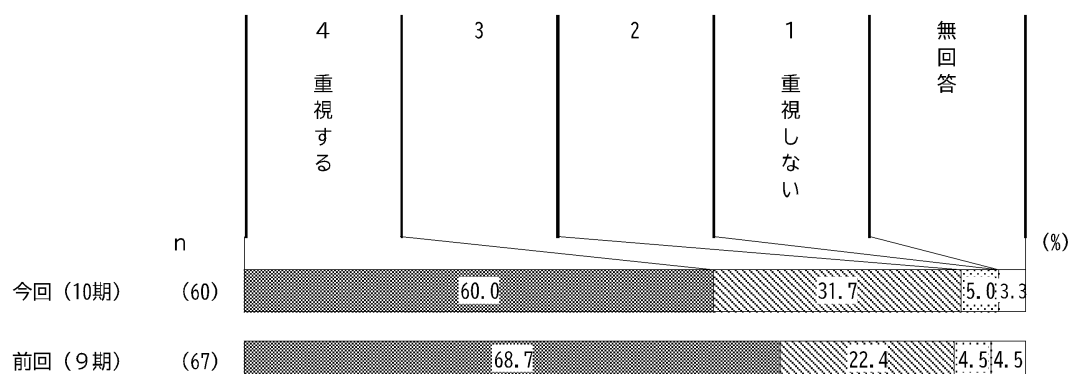
問5 ケアプランの作成にあたって以下の項目について、重視している度合いのあてはまる数字に○をしてください。

① 自立支援の観点

自立支援の観点は、「4 重視する」が60.0%で最も多く、次いで「3」が31.7%、「2」が5.0%となっている。

前回調査と比較すると、「4 重視する」が8.7ポイント低く、「3」が9.3ポイント高くなっている。

図表1-12-1 自立支援の観点 前回比較

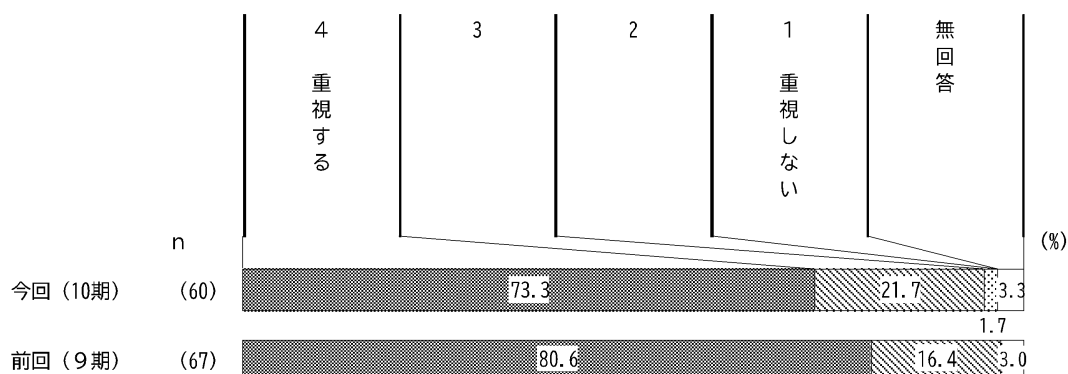


② 本人の意思・希望が反映されていること

本人の意思・希望が反映されていることは、「4 重視する」が73.3%で最も多く、次いで「3」が21.7%、「2」が1.7%となっている。

前回調査と比較すると、「4 重視する」が7.3ポイント低く、「3」が5.3ポイント高くなっている。

図表1-12-2 本人の意思・希望が反映されていること 前回比較

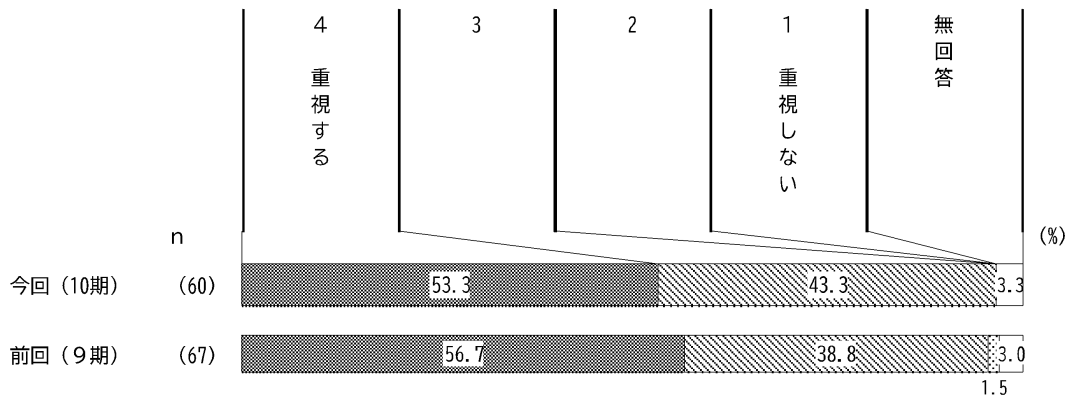


③ 家族の意向が反映されていること

家族の意向が反映されていることは、「4 重視する」が53.3%で最も多く、次いで「3」が43.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-12-3 家族の意向が反映されていること 前回比較

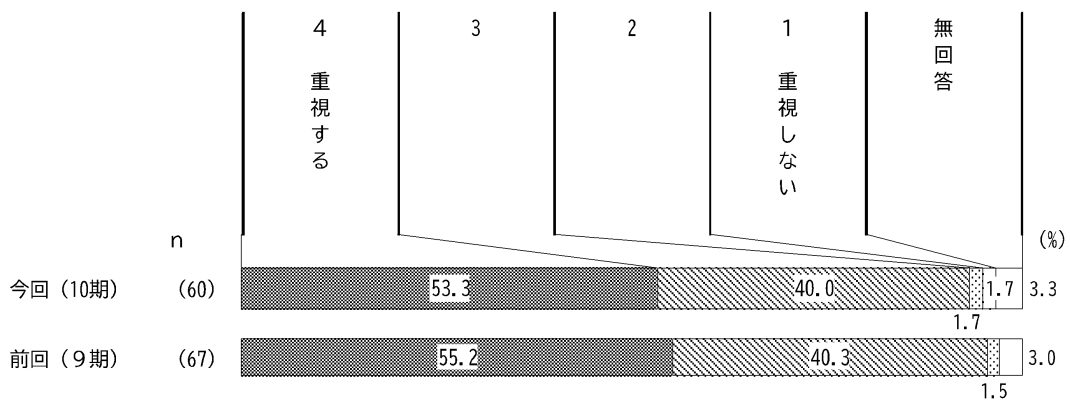


④ 経済的状況が反映されていること

経済的状況が反映されていることは、「4 重視する」が53.3%で最も多く、次いで「3」が40.0%、「1 重視しない」と「2」が1.7%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-12-4 経済的状況が反映されていること 前回比較



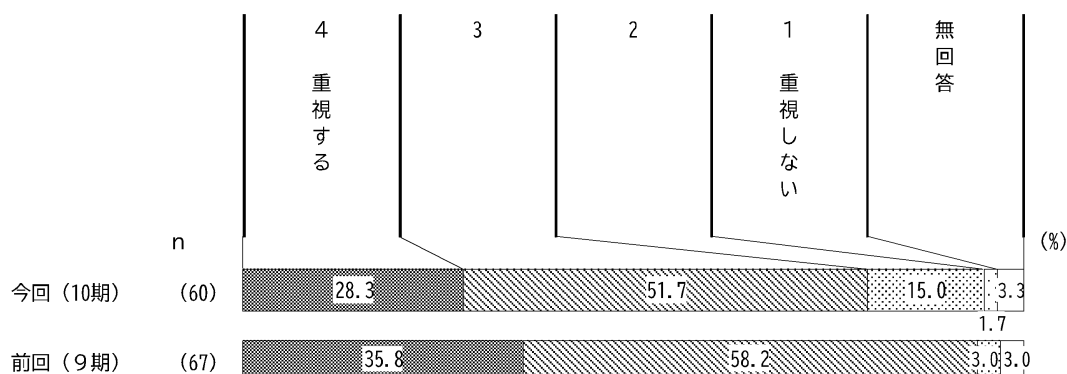
1 介護支援専門員向けアンケート

⑤ 生活歴の把握

生活歴の把握は、「3」が51.7%で最も多く、次いで「4重視する」が28.3%、「2」が15.0%となっている。

前回調査と比較すると、「4重視する」が7.5ポイント、「3」が6.5ポイント低くなっている。一方で、「2」が12.0ポイント高くなっている。

図表1-12-5 生活歴の把握 前回比較

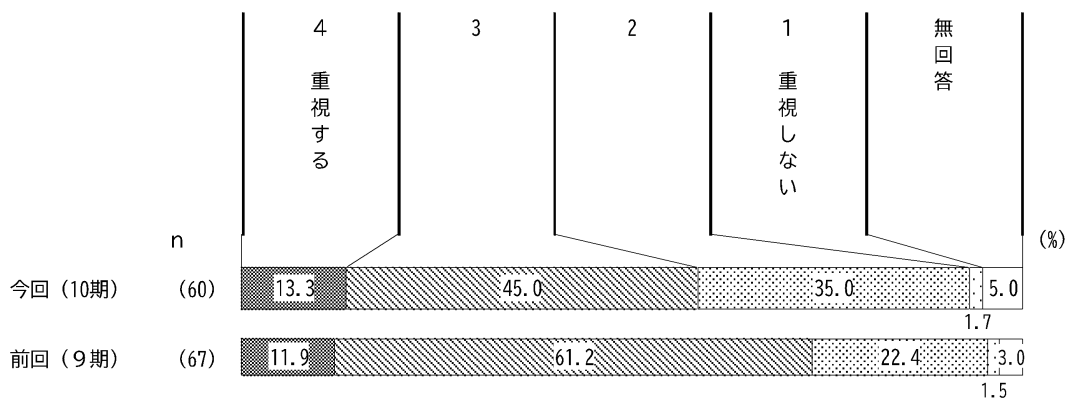


⑥ 介護支援専門員の専門的意見が反映されていること

介護支援専門員の専門的意見が反映されていることは、「3」が45.0%で最も多く、次いで「2」が35.0%、「4重視する」が13.3%となっている。

前回調査と比較すると、「3」が16.2ポイント低く、「2」が12.6ポイント高くなっている。

図表1-12-6 介護支援専門員の専門的意見が反映されていること 前回比較

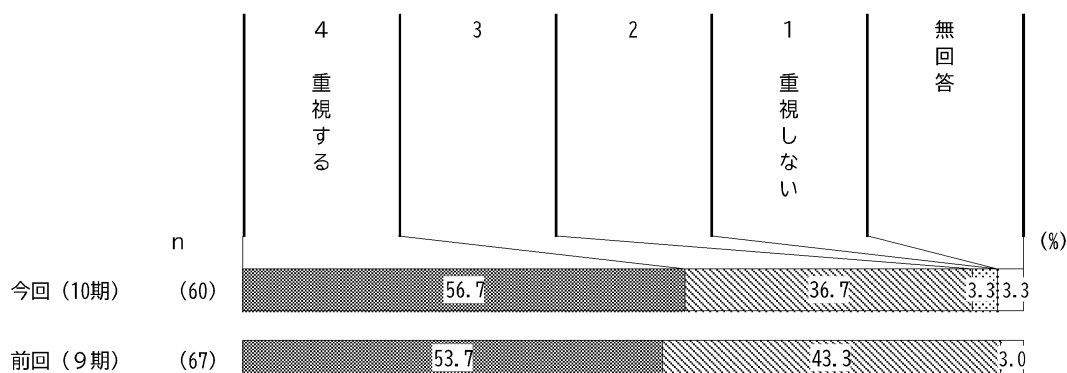


⑦ 本人の状態等が改善される目標となっていること

本人の状態等が改善される目標となっていることは、「4重視する」が56.7%で最も多く、次いで「3」が36.7%、「2」が3.3%となっている。

前回調査と比較すると、「3」が6.6ポイント低くなっている。

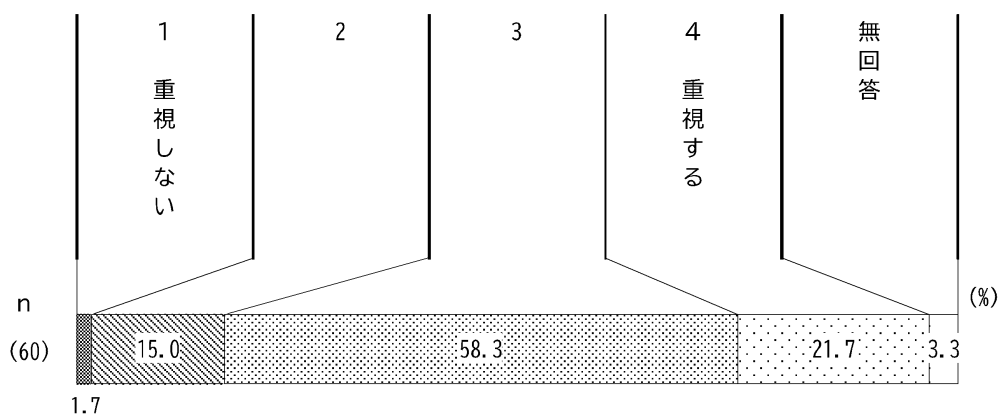
図表1-12-7 本人の状態等が改善される目標となっていること 前回比較



⑧ 主治医意見書の意向

主治医意見書の意向は、「3」が58.3%で最も多く、次いで「4重視する」が21.7%、「2」が15.0%、「1重視しない」が1.7%となっている。

図表1-12-8 主治医意見書の意向 全体



1 介護支援専門員向けアンケート

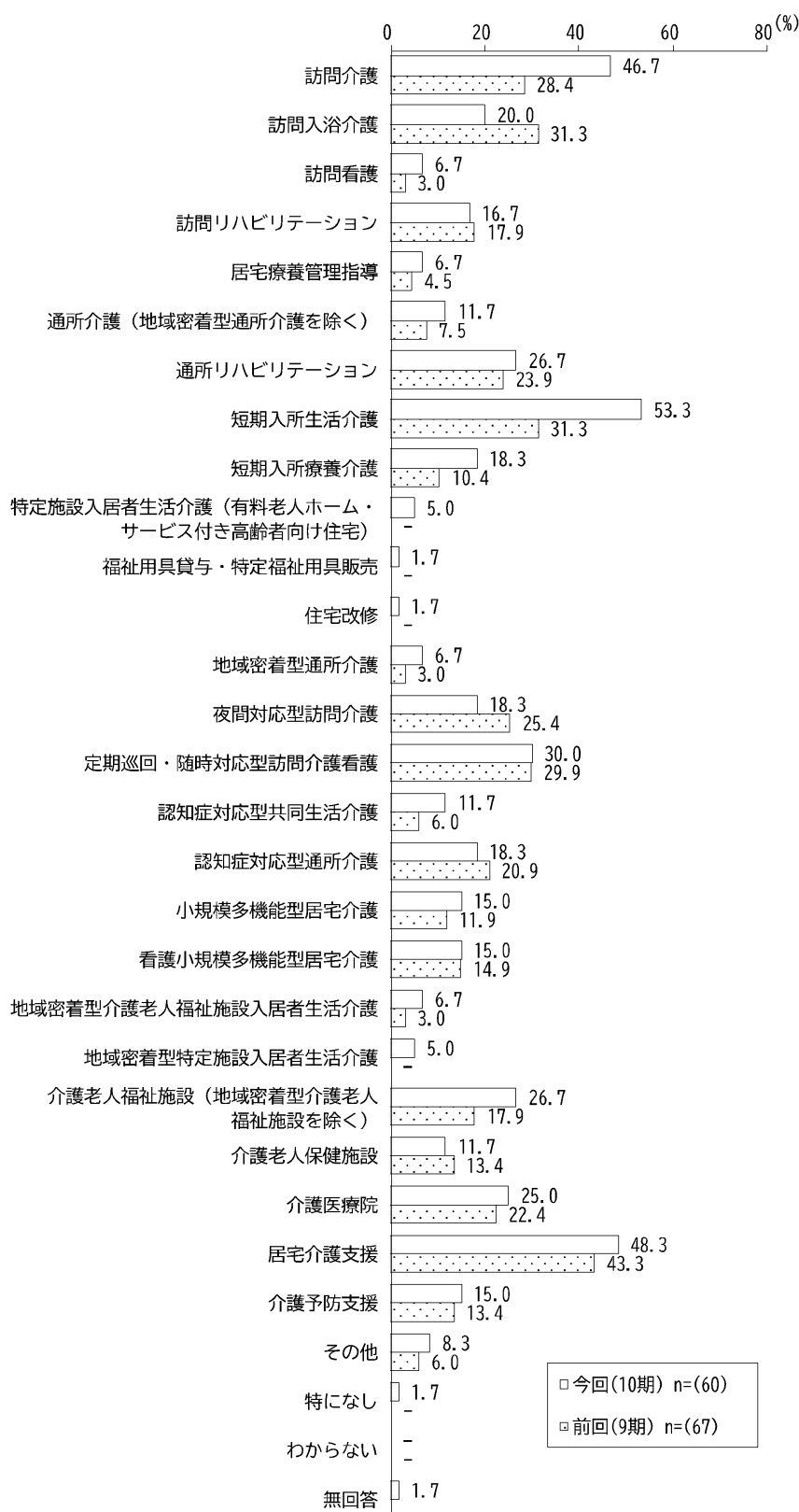
(13) 地域に不足している・必要と思う介護保険サービス

問6 地域に不足しているまたは必要であると思う介護保険サービスは何ですか。
(あてはまるものすべてに○) ※予防サービスも含まれます

地域に不足している・必要と思う介護保険サービスは、「短期入所生活介護」が53.3%で最も多く、次いで「居宅介護支援」が48.3%、「訪問介護」が46.7%となっている。

前回調査と比較すると、「短期入所生活介護」が22.0ポイント、「訪問介護」が18.3ポイント、「介護老人福祉施設（地域密着型介護老人福祉施設を除く）」が8.8ポイント、「短期入所療養介護」が7.9ポイント、「認知症対応型共同生活介護」が5.7ポイント、「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅）」と「地域密着型特定施設入居者生活介護」、「居宅介護支援」が5.0ポイント高くなっている。一方で「訪問入浴介護」が11.3ポイント、「夜間対応型訪問介護」が7.1ポイント低くなっている。

図表1-13 地域に不足している・必要と思う介護保険サービス 前回比較



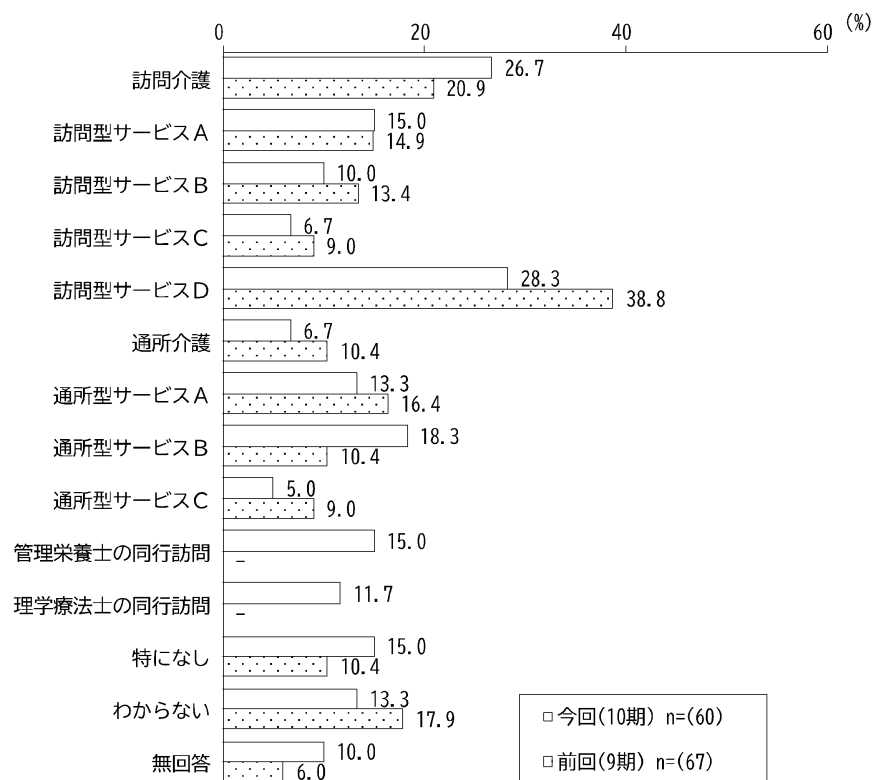
1 介護支援専門員向けアンケート

(14) 地域に不足している・必要と思う総合事業サービス

問7 地域に不足しているまたは必要であると思う総合事業サービスは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

地域に不足している・必要と思う総合事業サービスは、「訪問型サービスD」が28.3%で最も多く、次いで「訪問介護」が26.7%、「通所型サービスB」が18.3%となっている。

図表1-14 地域に不足している・必要と思う総合事業サービス 前回比較*



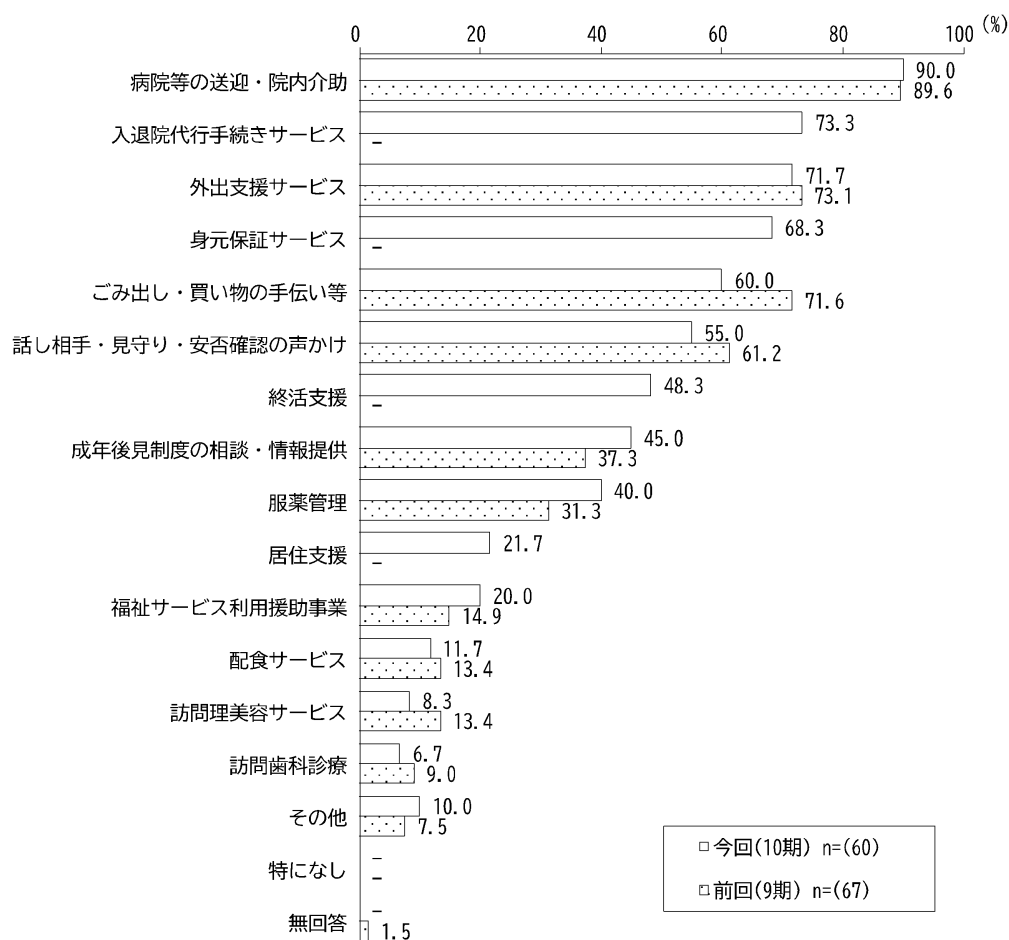
※前回（9期）において、「管理栄養士の同行訪問」「理学療法士の同行訪問」は非聴取項目であるため、前回比較は参考として掲載

(15) 今後、充実が必要だと思われる介護保険以外のサービス

問8 今後、充実が必要だと思われる介護保険以外のサービスはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

今後、充実が必要だと思われる介護保険以外のサービスは、「病院等の送迎・院内介助」が90.0%で最も多く、次いで「入退院代行手続きサービス」が73.3%、「外出支援サービス」が71.7%となっている。

図表1-15 今後、充実が必要だと思われる介護保険以外のサービス 前回比較※



※前回（9期）において、「入退院代行手続きサービス」「身元保証サービス」「終活支援」「居住支援」は非聴収項目であるため、前回比較は参考として掲載

1 介護支援専門員向けアンケート

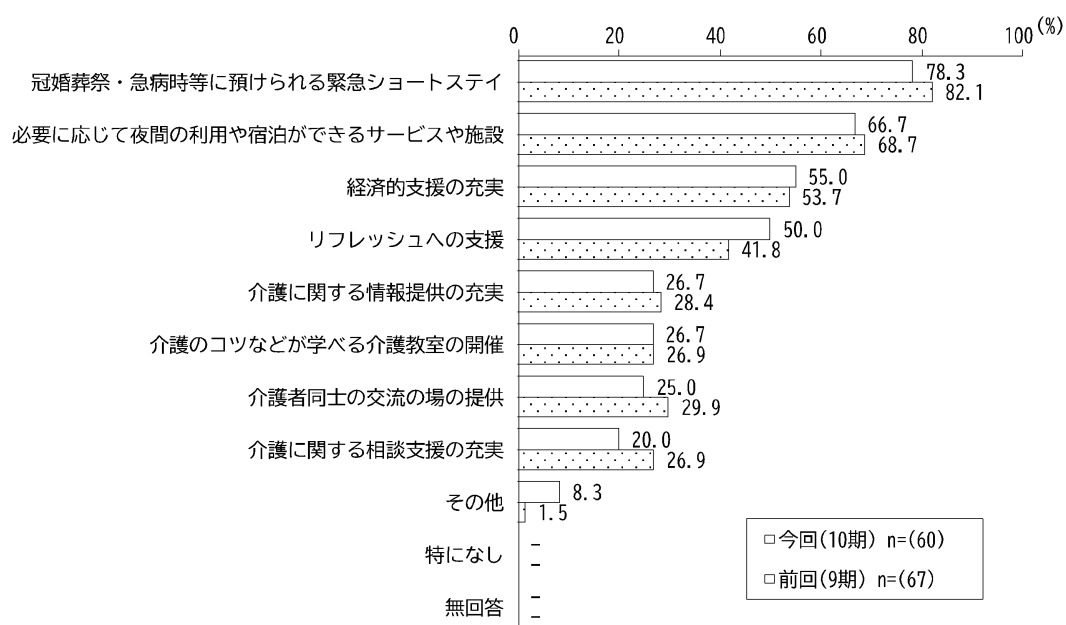
(16) 在宅で高齢者等を介護している家族に対してあると良い支援・サービス

問9 在宅で高齢者等を介護しているご家族に対して、どのような支援やサービスがあると良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で高齢者等を介護している家族に対してあると良い支援・サービスは、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」が78.3%で最も多く、次いで「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」が66.7%、「経済的支援の充実」が55.0%となっている。

前回調査と比較すると、「リフレッシュへの支援」が8.2ポイント、「その他」が6.8ポイント高くなっている。一方で「介護に関する相談支援の充実」が6.9ポイント低くなっている。

図表1-16 在宅で高齢者等を介護している家族に対してあると良い支援・サービス 前回比較



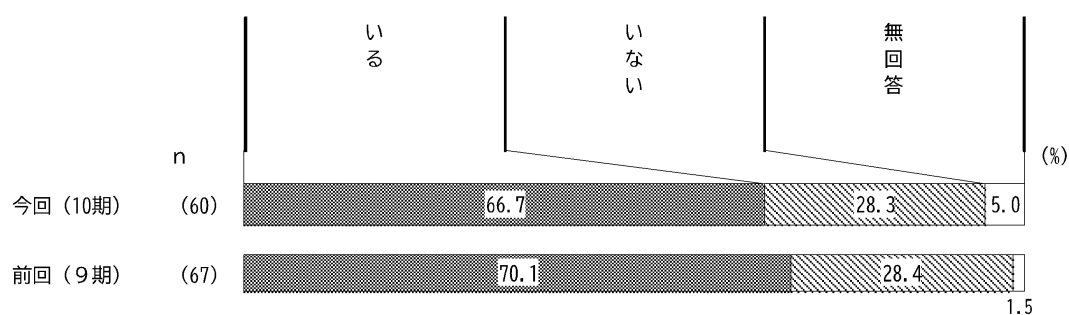
(17) 介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者

問10 あなたが担当している利用者の中で、本人または家族が介護保険施設等（グループホーム、有料老人ホーム等も含みます）への入所・入居を希望している方はいますか。（1つに○をつけ、介護保険施設等への入所を希望している人がいる場合にはその人数を記入してください）

介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者は、「いる」が66.7%、「いない」が28.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-17 介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者 前回比較



1 介護支援専門員向けアンケート

(18) 入所・入居を希望している利用者の人数・希望する施設

(問10で、「1. いる」とお答えの方におたずねします。)

問10-1 問10「1」の人数の内訳を記入してください。(ひとりの利用者につき、一番希望の強い施設種別を選んでください。)

介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者は、合計で124人。

一番希望が強い施設種別は、「1. 介護老人福祉施設（地域密着型介護老人福祉施設を除く）」で49.2%（希望する利用者61人）が最も多く、次いで、「6. 特定施設」が19.4%（希望する利用者24人）、「グループホーム」が15.3%（希望する利用者19人）となっている。

図表1-18 一番希望の強い施設種別

本人または家族が介護保険施設等への入所・入居を希望している利用者（n=40）

1. 介護老人福祉施設（地域密着型介護老人福祉施設を除く）	61人	49.2%
2. 介護老人保健施設	7人	5.6%
3. 介護医療院	1人	0.8%
4. 地域密着型介護老人福祉施設	0人	-
5. グループホーム	19人	15.3%
6. 特定施設	24人	19.4%
7. その他	12人	9.7%
合計	124人	100.0%

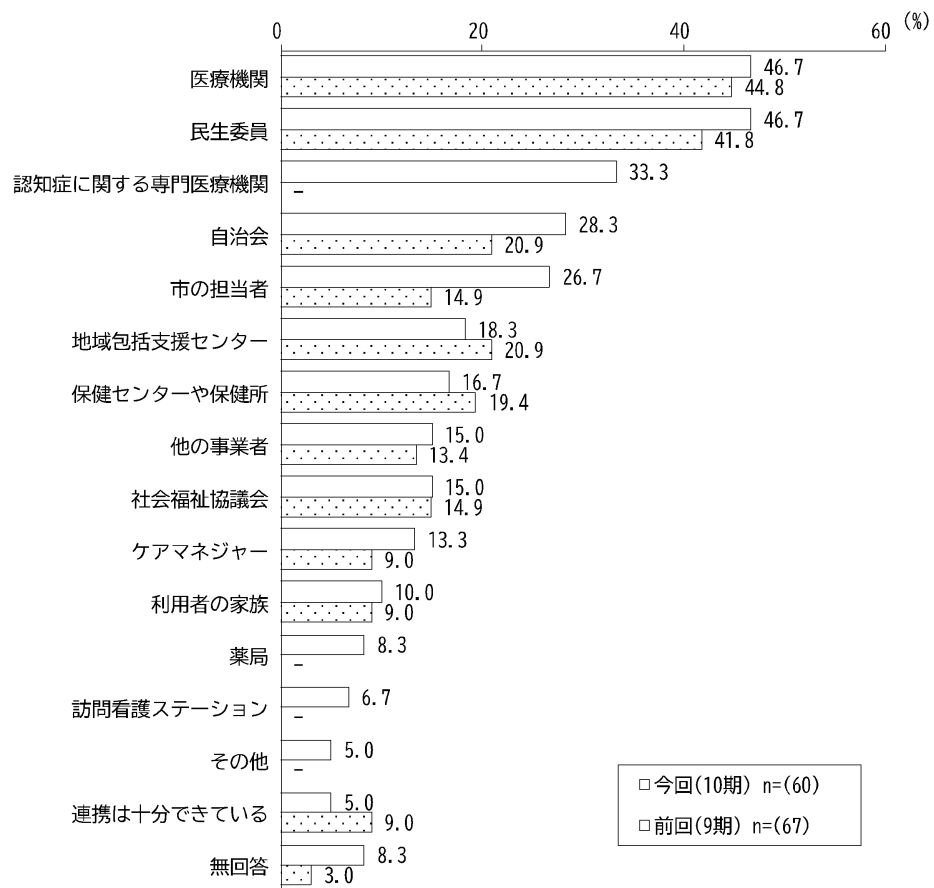
※割合：入所・入居希望人数に占める割合

(19) 必要な連携が不足している関係機関・関係者

問11 必要な連携が不足していると考えている関係機関・関係者をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

必要な連携が不足している関係機関・関係者は、「医療機関」が46.7%で最も多く、次いで「民生委員」が46.7%、「認知症に関する専門医療機関」が33.3%、「自治会」が28.3%、「市の担当者」が26.7%となっている。

図表1-19 必要な連携が不足している関係機関・関係者 前回比較※



※前回（9期）において、「認知症に関する専門医療機関」「薬局」「訪問看護ステーション」は非聴取項目であるため、前回比較は参考として掲載

1 介護支援専門員向けアンケート

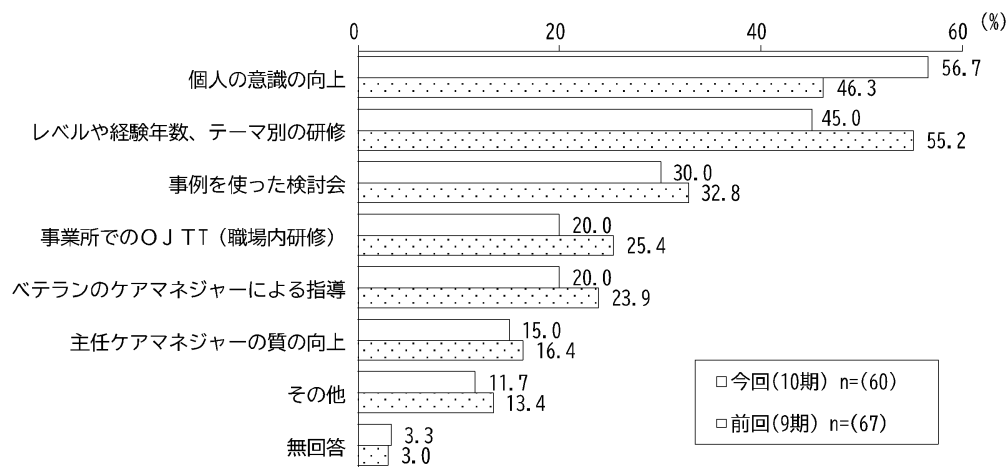
(20) ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うこと

問12 ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うことは、「個人の意識の向上」が56.7%で最も多く、次いで「レベルや経験年数、テーマ別の研修」が45.0%、「事例を使った検討会」が30.0%となっている。

前回調査と比較すると、「個人の意識の向上」が10.4ポイント高くなっている。一方で「レベルや経験年数、テーマ別の研修」が10.2ポイント、「事業所でのOJT（職場内研修）」が5.4ポイント低くなっている。

図表1-20 ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うこと 前回比較



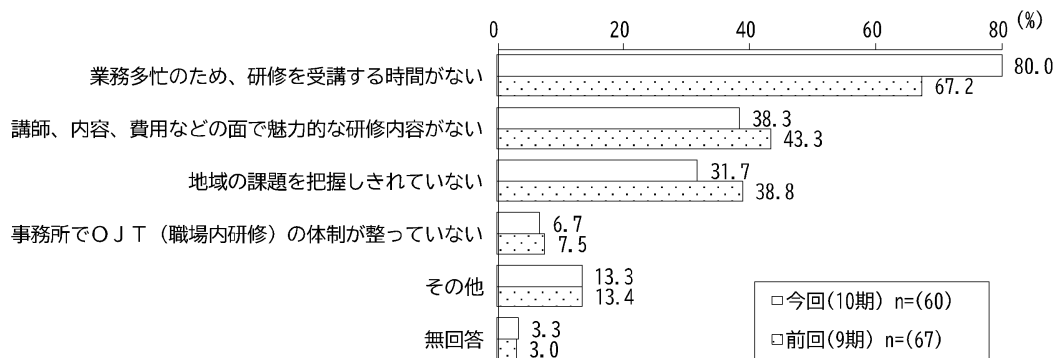
(21) ケアマネジャーの質の向上における課題

問13 ケアマネジャーの質の向上における課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジャーの質の向上における課題は、「業務多忙のため、研修を受講する時間がない」が80.0%で最も多く、次いで「講師、内容、費用などの面で魅力的な研修内容がない」が38.3%、「地域の課題を把握しきれていない」が31.7%となっている。

前回調査と比較すると、「業務多忙のため、研修を受講する時間がない」が12.8ポイント高くなっている。一方で「講師、内容、費用などの面で魅力的な研修内容がない」が5.0ポイント、「地域の課題を把握しきれていない」が7.1ポイント低くなっている。

図表1-21 ケアマネジャーの質の向上における課題 前回比較



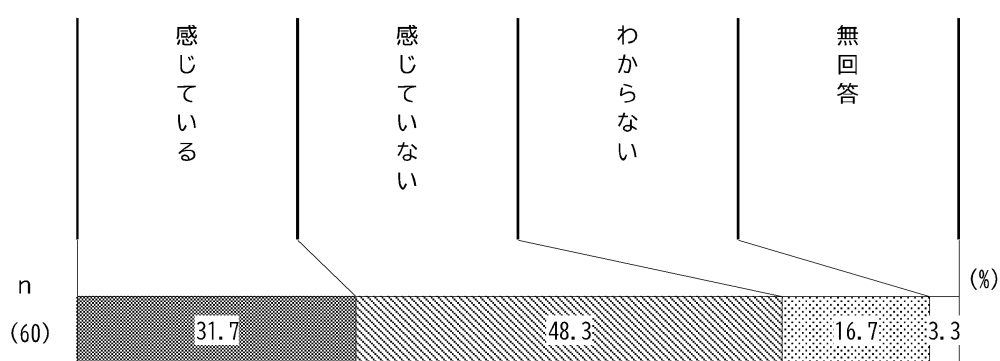
1 介護支援専門員向けアンケート

(22) BCP運用の課題

問14 あなたが今働いている介護サービス事業所において、事業継続計画（BCP）の運用に課題を感じていますか。（○は1つ）

BCP運用の課題は、「感じていない」が48.3%で、「感じている」が31.7%、「わからない」が16.7%となっている。

図表1-22 BCP運用の課題 全体



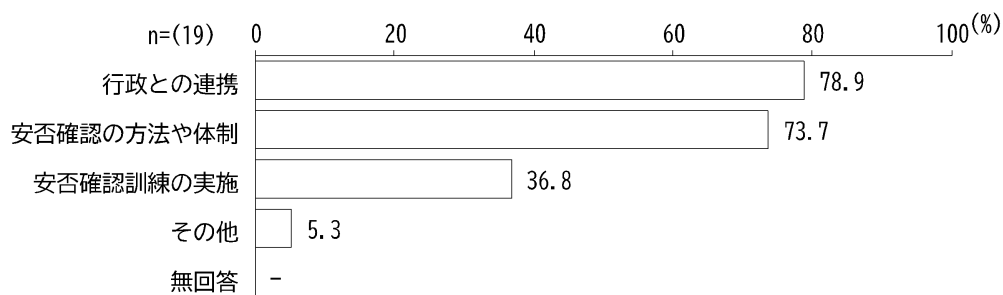
(23) BCP運用における課題の内容

(問14で、「1. 感じている」とお答えの方におたずねします。)

問14-1 どのような課題を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

BCP運用における課題の内容は、「行政との連携」が78.9%で最も多く、次いで「安否確認の方法や体制」が73.7%、「安否確認訓練の実施」が36.8%、「その他」が5.3%となっている。

図表1-23 BCP運用における課題の内容 全体

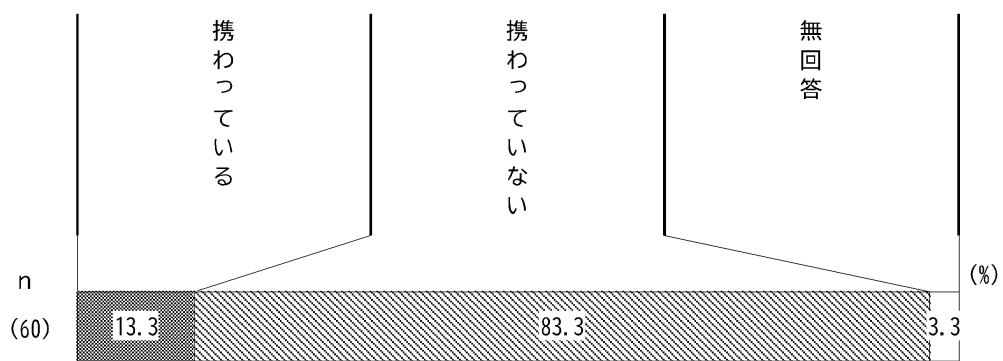


(24) 個別避難計画策定に携わっているか

問15 市では、災害時に自力での避難が難しい高齢者や障害者などの避難行動要支援者が、「どこへ」「だれと」「どのように」避難するかをあらかじめ定めた個別避難計画を策定していますが、あなたはその計画策定に携わっていますか。(〇は1つ)

個別避難計画策定に携わっているかは、「携わっていない」が83.3%、「携わっている」が13.3%となっている。

図表1-24 個別避難計画策定に携わっているか 全体



1 介護支援専門員向けアンケート

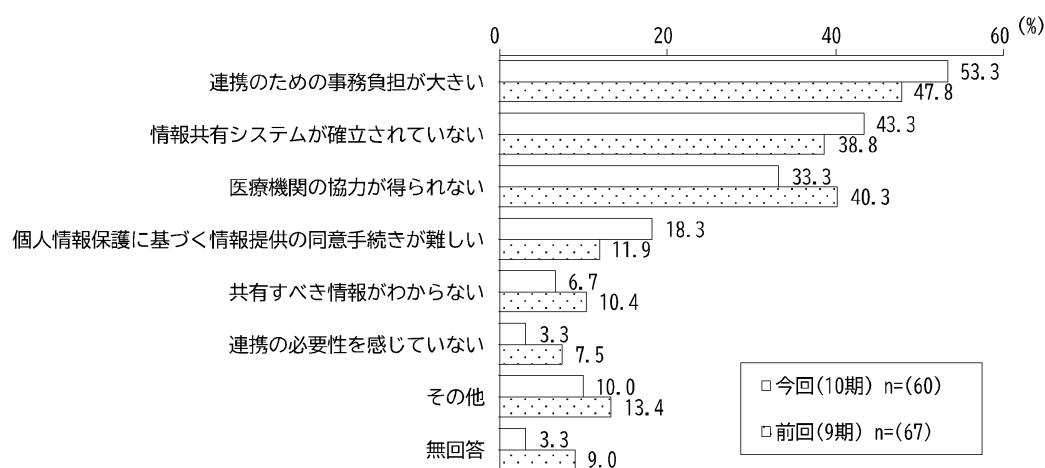
(25) 医療機関との連携を進める上での課題

問16 医療機関との連携を進める上での課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

医療機関との連携を進める上での課題は、「連携のための事務負担が大きい」が53.3%で最も多く、次いで「情報共有システムが確立されていない」が43.3%、「医療機関の協力が得られない」が33.3%、「個人情報保護に基づく情報提供の同意手続きが難しい」が18.3%となっている。

前回調査と比較すると、「医療機関の協力が得られない」が7.0ポイント低くなっている。一方で「個人情報保護に基づく情報提供の同意手続きが難しい」が6.4ポイント、「連携のための事務負担が大きい」が5.5ポイント高くなっている。

図表1-25 医療機関との連携を進める上での課題 前回比較



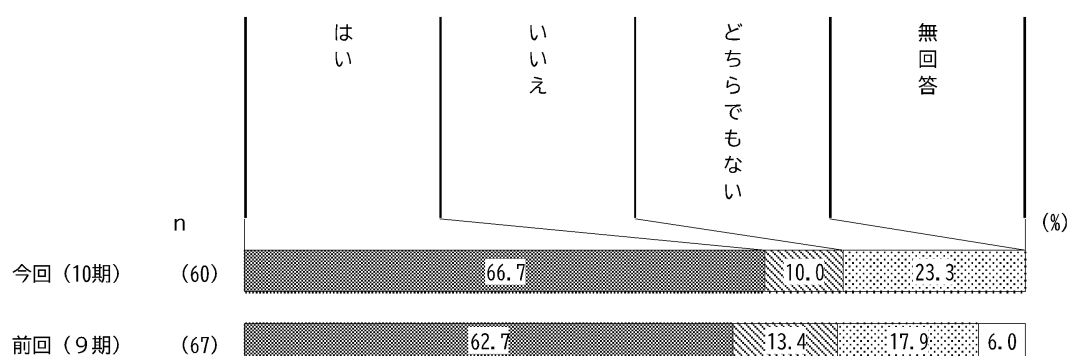
(26) 利用者急変時の対応で問題を感じることもあるか

問17 利用者の急変時の対応で問題を感じることはありますか。(〇は1つ)

利用者急変時の対応で問題を感じることは、「はい」が66.7%、「どちらでもない」が23.3%、「いいえ」が10.0%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらでもない」が5.4ポイント高くなっている。

図表1-26 利用者急変時の対応で問題を感じることもあるか 前回比較



(27) 利用者急変時の対応における具体的な問題

(問17で、「1. はい」とお答えの方におたずねします。)

問17-1 問題とは具体的に何ですか。(自由記載)

利用者急変時の対応における具体的な問題をたずねたところ、43人からの回答があった。その他を除いて回答の多かった内容は、「利用者が独居、家族が遠方」「家族が協力的ではない・協力が難しい」の順であった。

図表1-27 利用者急変時の対応における具体的な問題の内容
回答者数=43人

利用者が独居、家族が遠方	14
家族が協力的ではない・協力が難しい	7
緊急搬送、病院での同行が生じる	6
家族等に連絡が取れない、時間がかかる	4
受入先の病院が見つからない・少ない、すぐに帰宅させられる	3
公休時や夜間等、業務時間外の対応が生じる	2
その他	11

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない

1 介護支援専門員向けアンケート

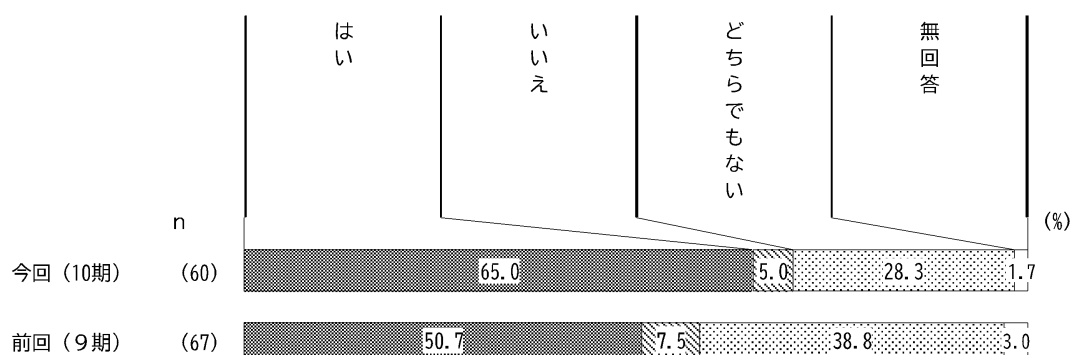
(28) 利用者急変時の対応について情報共有しているか

問18 利用者の急変時の対応についてサービス担当者会議などで情報を共有できていますか。
(○は1つ)

利用者急変時の対応について情報共有しているかは、「はい」が65.0%、「どちらでもない」が28.3%、「いいえ」が5.0%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」が14.3ポイント高く、「どちらでもない」が10.5ポイント低くなっている。

図表1-28 利用者急変時の対応について情報共有しているか 前回比較



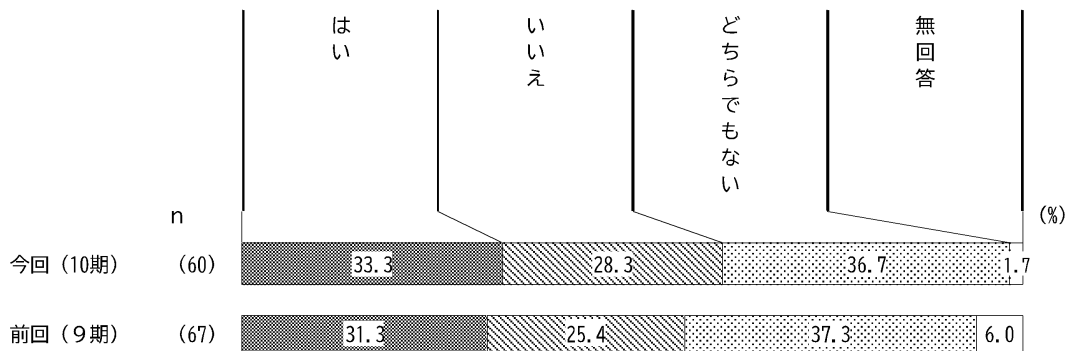
(29) 在宅での看取りについて問題を感じるか

問19 在宅での看取りについて問題を感じることはありますか。(○は1つ)

在宅での看取りについて問題を感じるかは、「どちらでもない」が36.7%、「はい」が33.3%、「いいえ」が28.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-29 在宅での看取りについて問題を感じるか 前回比較



(30) 在宅での看取りにおける具体的な問題

(問19で、「1. はい」とお答えの方におたずねします。)

問19-1 問題とは具体的に何ですか。(自由記載)

在宅での看取りにおける具体的な問題をたずねたところ、18人からの回答があった。その他を除いて回答の多かった内容は、「本人と家族の思いの相違がある」「家族に理解されない、協力が得られない」「医療系サービスとの連携や医師の介護サービスへの理解・知識不足」の順であった。

図表1-30 在宅での看取りにおける具体的な問題の内容

回答者数=18人

本人と家族の思いの相違がある	5
家族に理解されない、協力が得られない	5
医療系サービスとの連携や医師の介護サービスへの理解・知識不足	4
家族の身体的・精神的な負担	2
急変時の対応	2
訪問・往診する医師がいない、少ない	2
その他	6

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない

1 介護支援専門員向けアンケート

(31) 比企地区で実施している事業の認知度

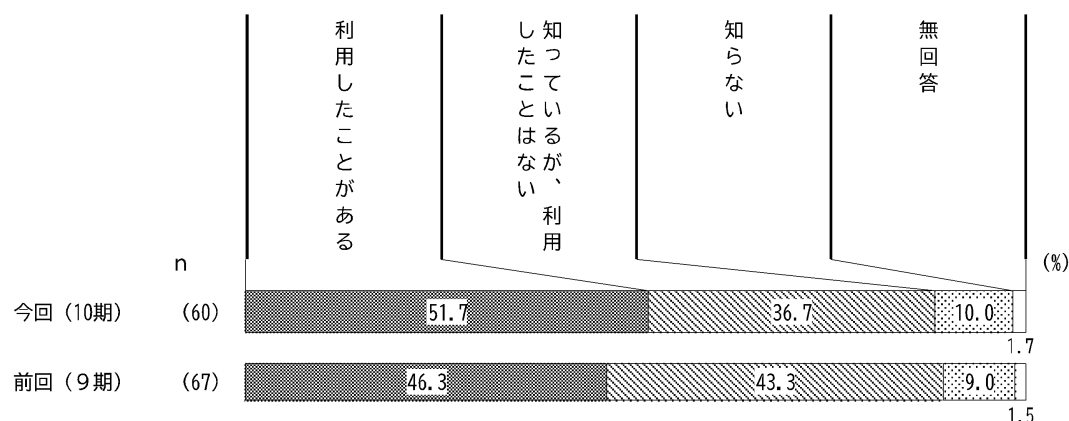
問20 比企地区で実施している次の事業を知っていますか。(それぞれ〇は1つ)

① 比企地区在宅医療・介護情報検索システム

「利用したことがある」が51.7%、「知っているが、利用したことはない」が36.7%、「知らない」が10.0%となっている。

前回調査と比較すると、「利用したことがある」が5.4ポイント高く、「知っているが、利用したことはない」が6.6ポイント低くなっている。

図表1-31-1 比企地区在宅医療・介護情報検索システム 前回比較

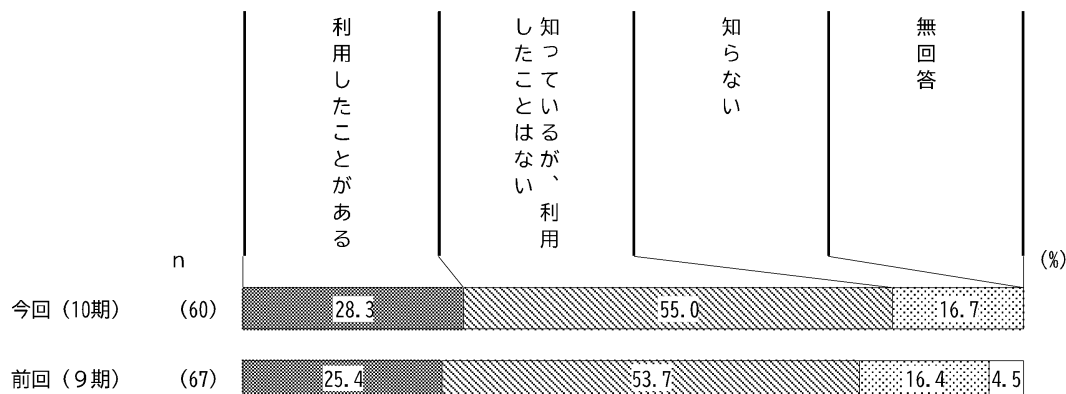


② 埼玉県比企地区版連携シート

「知っているが、利用したことはない」が55.0%、「利用したことがある」が28.3%、「知らない」が16.7%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-31-2 埼玉県比企地区版連携シート 前回比較

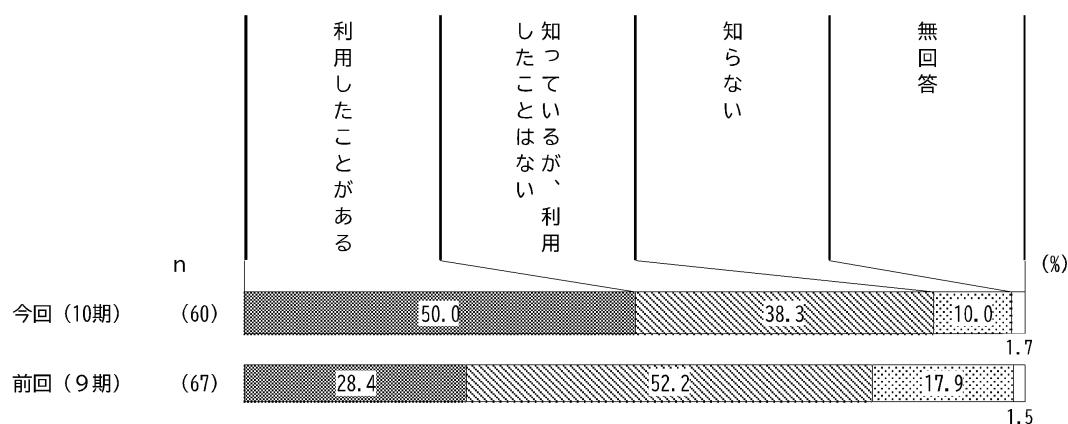


③ 比企医師会在宅医療連携拠点

「利用したことがある」が50.0%、「知っているが、利用したことはない」が38.3%、「知らない」が10.0%となっている。

前回調査と比較すると、「利用したことがある」が21.6ポイント高くなっている。一方で「知っているが、利用したことはない」が13.9ポイント、「知らない」が7.9ポイント低くなっている。

図表1-31-3 比企医師会在宅医療連携拠点 前回比較

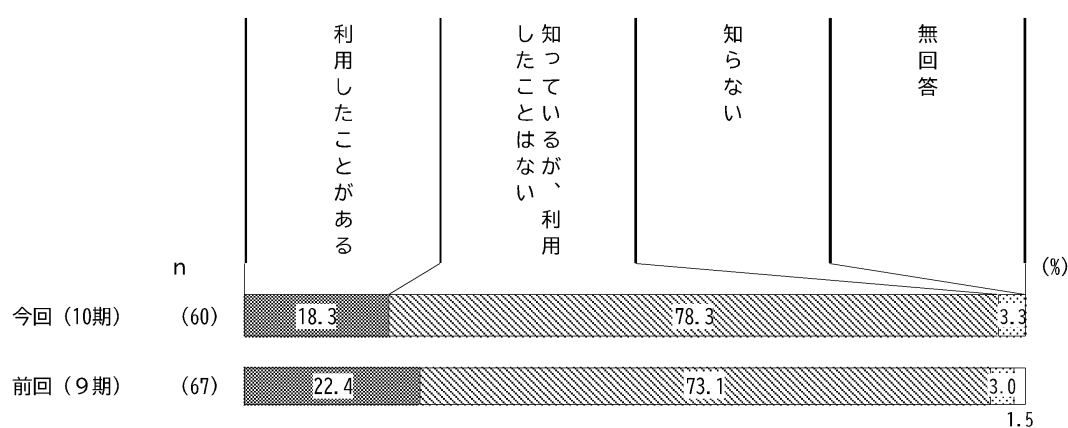


④ 私の意思表示ノート

「知っているが、利用したことはない」が78.3%、「利用したことがある」が18.3%、「知らない」が3.3%となっている。

前回調査と比較すると、「知っているが、利用したことはない」が5.2ポイント高くなっている。

図表1-31-4 私の意思表示ノート 前回比較

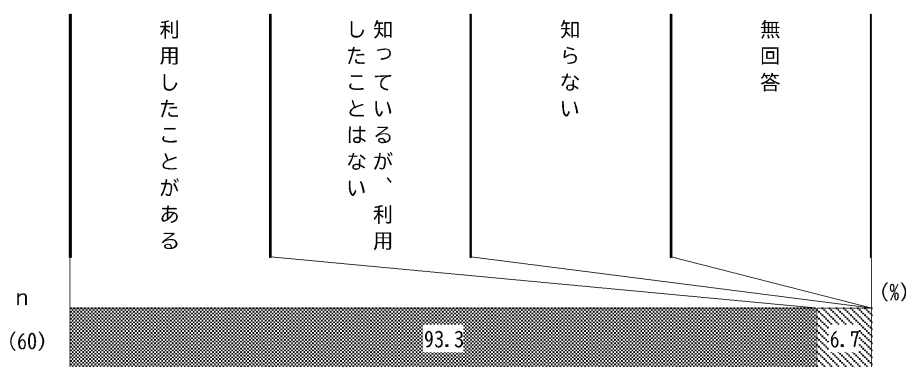


1 介護支援専門員向けアンケート

⑤ MCS (メディカル・ケア・ステーション)

「利用したことがある」が93.3%、「知っているが、利用したことはない」が6.7%となっている。

図表1-31-5 MCS (メディカル・ケア・ステーション) 全体

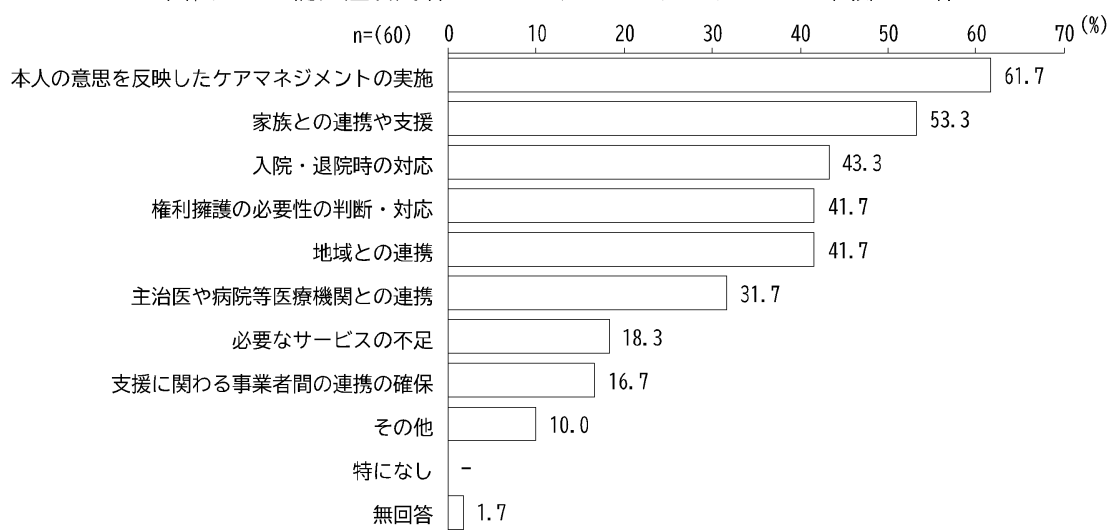


(32) 認知症利用者のケアマネジメントにあたっての困難

問21 認知症の利用者のケアマネジメントにあたって、困難に感じることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症利用者のケアマネジメントにあたっての困難は、「本人の意思を反映したケアマネジメントの実施」が61.7%で最も多く、次いで「家族との連携や支援」が53.3%、「入院・退院時の対応」が43.3%となっている。

図表1-32 認知症利用者のケアマネジメントにあたっての困難 全体

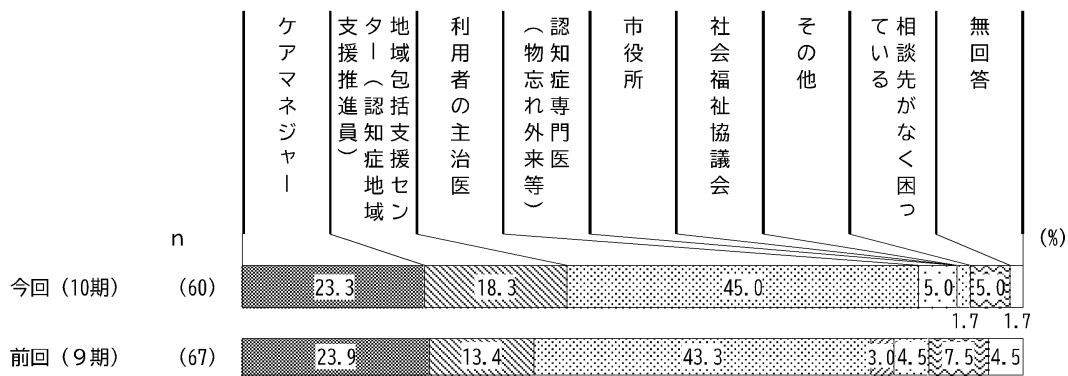


(33) 利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初に相談する相手

問22 利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初にどこに（誰に）相談をします（しました）か。（○は1つ）

利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初に相談する相手は、「利用者の主治医」が45.0%で最も多く、次いで「ケアマネジャー」が23.3%、「地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）」が18.3%となっている。

図表1-33 利用者の物忘れや認知症の対応で困った時、最初に相談する相手 前回比較*



※前回（9期）において、「認知症専門医（物忘れ外来等）」は非聴取項目であるため、前回比較は参考として掲載

(34) 徘徊行動のある利用者の人数

問23 利用者のうち、認知症による徘徊行動のある人は何人いますか。

徘徊行動がある利用者は70人で、一人あたりの平均人数は1.3人となっている。

図表1-34 徘徊行動のある利用者の人数 全体

徘徊行動ある人	70人	1.3人
---------	-----	------

※回答者（n=54）一人あたりの平均人数

1 介護支援専門員向けアンケート

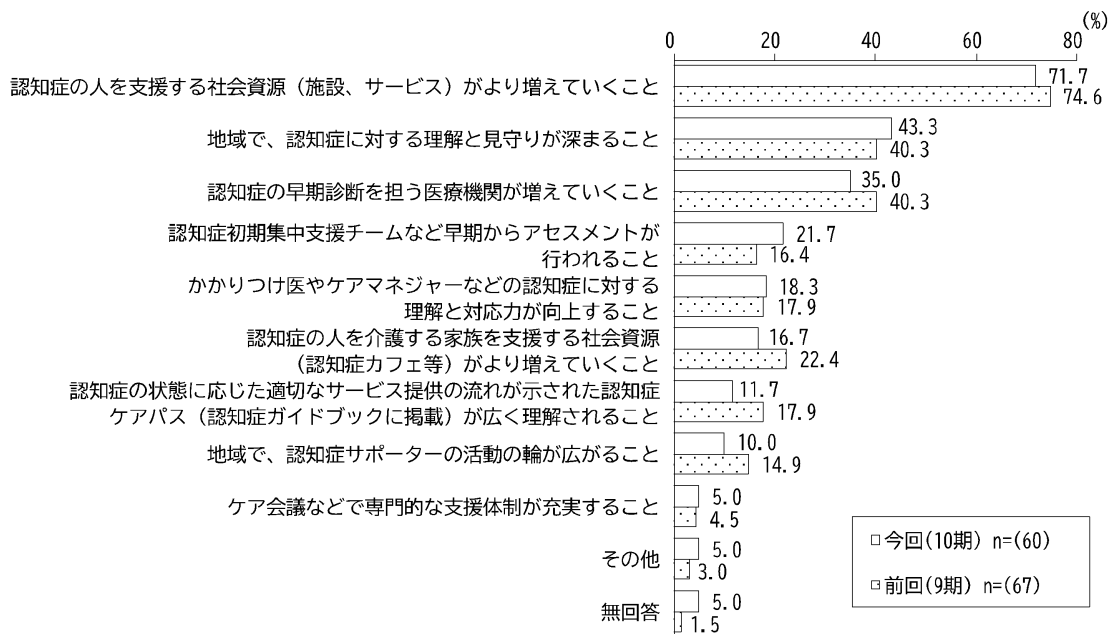
(35) 認知症の方の支援にあたり必要になること

問24 これから、認知症の方の支援にあたり必要になると思うのは、次のどれですか。
(○は3つまで)

認知症の方の支援にあたり必要になることは、「認知症の人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」が71.7%で最も多く、次いで「地域で、認知症に対する理解と見守りが深まること」が43.3%、「認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと」が35.0%、「認知症初期集中支援チームなど早期からアセスメントが行われること」が21.7%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示された認知症ケアパス（認知症ガイドブックに掲載）が広く理解されること」が6.2ポイント、「認知症の人を介護する家族を支援する社会資源（認知症カフェ等）がより増えていくこと」が5.7ポイント、「認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと」が5.3ポイント低くなっている。一方で「認知症初期集中支援チームなど早期からアセスメントが行われること」が5.3ポイント高くなっている。

図表1-35 認知症の方の支援にあたり必要になること 前回比較



(36) 自由意見

問25 高齢者施策、介護保険制度等について、ご意見等があればご自由にお書きください。

高齢者施策、介護保険制度等についてたずねたところ、19人からの回答があった。その内容は、「利用者・家族の状況・ニーズ」「ケアマネジメント業務の課題」「医療と介護の連携」「制度・運用上の課題」「介護人材」「地域包括ケア・相談支援」「社会資源・地域づくり」の順であった。

図表1-36 高齢者施策、介護保険制度等についての自由意見の内容

回答者数=19人

利用者・家族の状況・ニーズ	7
ケアマネジメント業務の課題	5
医療と介護の連携	4
制度・運用上の課題	3
介護人材	2
地域包括ケア・相談支援	2
社会資源・地域づくり	2
認知症施策	2
その他	11

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない